

第4章

父母たちの思い出

無題

岩城千恵子

時の流れは早く、アンジヨリーナ校長様にお会いしてはや四〇年の月日がたちました。

いつもお会いしてもにこにこして子どもたち、私共父兄に対しても、慈愛にみちた笑顔で接してくださったお顔が忘れられません。

亡き主人が建設委員に参加させていただいた時など、ユーモアたっぷりに

「うちの学校は鉄筋コンクリートだけど、実は借金コンクリートなのよ」

とおっしゃつて皆様を笑わせていらっしゃいましたことなど、大変印象に残つております。

現在は小中高一貫教育の場として立派な学校に発展なされたことは、アンジヨリーナ様の御功績のたまものと存じ上げます。もしお会いできましたならば、バザーの時の準備など昔の色々な想い出話などお話申し上げたいと思います。また、子どもたちがお世話になつたことへの感謝も申し上げたいと思います。

アンジヨリーナ様がご健康で、いつまでもお元気でみんなの光となつて輝いていてくださいますことを心よりお祈り申し上げます。

無題

古賀敦子

アンジヨリーナ校長様の御名を拝聴するたびにお導きの一筋の光となつてくださつた校長様のお懐かしいお姿が目に浮かんで参ります。

そして、娘の幼い星美学園生活のことどもがほうふつとして胸を去來し、熱いものがこみ上げて参ります。

また、最初に校長様のご依頼でおみ足に合うお靴をお造り致しましたことが私にとつて生涯の大切な想い出となりました。

校長様のみ心に触れることで、その頃の若き母として私も娘も人生の支えとなりまして今日こうして幸せに暮らせることに心から感謝致しております。

この機会をおかりしまして、想い出の一ページを述べさせていただきました。

シスター・リタ・ボニーの想い出

森竹和子

一九七四年の四月、私の義弟の会社が倒産した。神戸で二代続いた日本で一番古いドイツのソーセージ屋だった。初代は第一次世界大戦で捕虜になり、日本に居着いてソーセージの店を

出した人である。家族が再建に東奔西走しているのを見かね、私は十歳の姪のマリカをしばらく預かることにして神戸から東京に連れて帰ってきた。マリカは神戸のドイツ学園に入つていた。私はドイツ語がわからないのです、娘が小学校に在籍していたときに目黒星美学園二代目小学校校長様でいらしたシスター・リタ・ボーニに、電話であらましの話を聞いていただいた（シスターは修道院院長様として目黒に再赴任されていた）。

そして翌日、早速時間をいただきマリカを連れておうかがいした。ドイツ学園の教育はドイツ語であつたが、マリカは日本の国語のドリルが好きで、パズル感覚で次から次へドリルに挑戦していた。「多分日本語のクラスに入つても付いていけるのではないか」と申し上げたら「それでは明日からいらっしゃい」とおっしゃつてくださった。そして晴れて四年生のクラスに編入し、クラス担任は小野先生だった。すぐに友だちもできて楽しそうに通いはじめた。

勉強の方も難なくスムーズに付いていけたようであつたが、ドイツ学園では特に体操の授業がなく、飛び箱では足が開かず何度も飛んでも箱に肢がひつかかり、随分苦労したらしい。座り込むスタイルになつてしまふのである。その内に内股がすれて皮がむけてきた。体操の林田先生が「もう、それだけ練習したのだから良いことにしよう」とおっしゃつてもマリカは承知しなかつた。体操の時間が終わつてもまだ「飛ばして下さい」と先生にお願いに行つたそうだ。足の痛さに涙をこぼしながら、何度も「もう一度」と挑戦をやめようとしない。先生が「もう

止めよう」とおっしゃったとき、職員室にいらつしやった小野先生が飛び出して来られて、「マリカさんがけがをしているじゃありませんか、なぜ止めさせないのですか」と興奮して叫ばれた。林田先生は「マリカさんが『自分で飛べるまで』と言つて聞かないのです」と話された。お二人はひやひやしながらご覧になつていたが、やつとその箱が無事に飛べ、小野先生も「マリカの執念にもらい泣きされた」と後でうかがつた。

そして短い四ヶ月の間ではあつたが、神戸の家の状況も落ち着いたので神戸に帰ることになりリタ・ボーニ校長様にご挨拶にうかがつた。校長様は「マリカちゃんは、もし神が私に子どもというものは何か、とお教え下さるなら、『子どもというものはこういう者なのだよ』と神様が見せて下さつたのだと思つていますよ」とおっしゃつた。後日、マリカがカナダ系の学校に通つている報告を兼ねて学校を訪ねた時、小野先生もおいでになり三人の話は大変弾んだ。「マリカの通つているステラマリスという学校は、神戸の海辺に近い山の中腹にあるので、放課後は男子も女子も水着のまま坂を走り下りて、海で泳いだりボールで遊んだりしているのを神父様が浜に座つて見ていらっしゃるのだ」と私がお話ししたら、校長様はことのほか楽しそうに「それが本当の教育なのよ」と明るくお笑いになつた。

いま、そのシスター・リタ・ボーニがおいでにならぬのは番外者の私にすら、大変淋しい想いがする。慎んでご冥福をお祈り致します。御生前の御厚情を感謝しつつ。

目黒星美学園設立当時のエピソード

1 「借金返済の為に」



小学校の土地・校舎を建設の為、経済的には大変なことが色々とありました。借金返済の方法として先ず、いろいろな方々からの援助やアドバイスを沢山いただきました。

例えば、バチカン（教皇様）から宣教地への大きな援助は何回もいただきましたし、ご父兄からは何かにつけてご寄付がありました。

ある時、ご父兄からのご要望で「英語の課外授業」をすることになりました。少ない人数から始まると考えていらした校長様は、フタを開けてみてびっくりなさいました。なぜなら、ほとんど全員の子どもたちが参加するという人気ぶりだったからです。その収益はもちろん借金返済の一部として大いに役に立つたというわけです。

2 「シスター方のご苦労」

学校も修道院もまだできていないころ、シスター方は神父様の御紹介で下宿生活を始められました。場所は目黒の鷺番という所で学校からそう遠くはないところでした。四畳半四つの日本家屋でしたが、洋館の感覚からするととてもとても小さなスペースに感じられたようです。

大家さんは、尼さん（女性）ということで家を大切にしてもらえるものと思って貸してくださいました。ところが、畳の上に机と椅子は置く、唐紙は破く、壁は壊すとメチャメチャにしてしまわれたのです。ところが、イタリア人のシスター方は「日本の家は弱いネ」という感想を持たれたらぐらいでしたが、日本人であるシスター・テレジーナはせつかく貸して下さった大家さんに平謝りに謝られたということでした。

当時、シスターたちは一日の間に朝のごミサや昼食等のため、教会、教室と下宿先を何往復もされ、夕方には皆さんクタクタになってしまわされました。

「元気を出して！ もう建物が見えていいるじやない。子どもたちいっぱいいるじやない」と励ましあいながら、毎日通い続けられたということです。この下宿での生活は一年ほどで終わりを告げました。

3 「シスター・アンジョリーナ・バローネ校長様の教育精神」

学校を作つていくうえで大切なことは何か？

アンジョリーナ校長様が考えていらしたのは、良い社会人を作つていくこと。ドン・ボスコのように「正直な人間で良い社会人」をめざすことでした。

知育・德育・体育のバランスの重要性を常におっしゃつていらしたそうです。健康であり、知的なものをすべて發揮し、豊かな心をもつていること。

豊かな心とは情操面（音楽・美術等）だけでなく、人に奉仕する気持ち、特に体を使つて奉仕することをさせたいと考えていらつしゃいました。

「手を遊ばせることはいけないことだ」と盛んにおっしゃつて、小さい編み物をしてみたり、その中からレリーフ展も出てきたわけです。ダルフィオル神父様もいろいろな面で協力をして下さいました。

「シスター、音楽やろうよ。豊かな人間つくりようよ」とおっしゃつて、オペレッタなど（東横ホールで上演できるまでにして下さいました）も当時、何もかもが始まつたばかりの新しい学校においてそれらのこと進めていくということは並たいていのことではありませんでした。

先生方やご父兄、神父様など多くの方々の努力と協力、そして奉仕の心がなければ到底成し

えなかつたであらうと思われます。もちろん、神様のお力とお恵みがあつてこそだつたことはいうまでもありません。

こうして初期の苦しい大変な時期を乗り切りながら学校作りは進められていきました。

ところで、日黒星美学園を語るうえで、特筆すべきこと、それはアンジヨリーナ校長様のそのお人柄です。包み込むような暖かさ、にじみ出る優しさ、そして心から神様を信じ続ける強い心。学校に流れる温かい家庭的な空気はその現れであります。

ただ現実としては、人間教育に力をいれながらも一方で、進学ということを度外視するわけにはいきませんでした。当時、あの日黒という地域で家庭的な雰囲気を保ちつつ、勉強にも力をいれていかなければならなかつたわけです。そんな時、すばらしいパートナーでいらしたシスター・テレジーナがその力を遺憾なく發揮され、子どもたちの指導をされたのは皆様もご存知の通りであります。


4 「制服と校章」

制服はいつたいどのようなものが良いのかということになつたとき、イギリスのイートン校の制服のイメージがあつたそうです。男子も女子もスマートな襟なしのイートンカラーの制服

でスタートする予定でした。

男子の方の制服が先にできてしまい、女子は時間があつたので、女子だけがイートンカラーの制服となつてしましました。男子と女子とで当初は異なる形でのスタートとなりました。生地はニッケで、色は黒、純毛を使用し、ちょっと贅沢な感じだつたようです。賛否両論ありましたが、帽子もとてもおしゃれなもので、皆の記憶に残るものでした。

校章は小学校の時のものは平面に色付けをしたもの、中高では燻した金属で凹凸のあるものでした。図柄は、ゆり（清き）と星（マリア様）でサレジアンシスターズの会のバッジとほとんど同じものになさつたとのことでした。中・高（女子）では、校章のほかに制服にワッペンを付けておりましたが、そのデザインはシスター・チエチリア吉平の手によるものでした。ご存知ない方もいらっしゃると思います。



みんなで歩む学校

目黒星美学園小学校 校長 大森隆實

二〇〇四年も、六つの合宿を伴った校外学習ひとつが山中湖で実施されました。かつて中高生のソフトボーラークラブと小学校の男子が試合をした宿舎裏の小さなグランドも、周りの木の成長で、年々狭くなつたように感じられます。

小中高の一貫教育をより確かなものにするためにと、三年前からこの場所で五年生の女子を対象に「森の学校」を実施しています。今年のテーマは、「出会いを通して、自分を知ろう」でした。フランシスコ会の山本神父様、筑波大名誉教授の児童心理学がご専門の杉原先生、それに八〇名の児童と十数名のスタッフと山中湖畔、東大の演習林をフィールドに、人との出会い、自然との出会い、神との出会い、友との出会いを通して、自らの傾きを知り、さらに正しく人生を歩む指針になれば、と行わされました。

五〇年前から変わらない子どもたちのいきいきとした姿は、四日間の合宿中、いろいろな場面で見られました。

今の目黒星美学園小学校をよりよくお知らせするために、校報「めぐろせいび」に書きました

「みんなで歩む学校」という文章を引用させていただき、いつも子どもとともに、というアシスティンツア（ともに居るという意）の精神が時代を越えて受け継がれていることを知つていただければ幸いです。

目黒星美では卒業するまでの六年間に、キリストの愛を知り、それを実践できる人に育つてほしいという願いが創立の時から脈々と流れています。

それによつて、本当の幸せを感じ取り、いい人生を送ることができるのでないでしょうか。私たちの考える、本当の幸せとは、誰からも愛される人として人生を歩むことだと考えます。

誰からも愛される人になるためには、多くのことを学び、多くの人と仲良くならなければなりません。そのためには、たくさんの苦しいこと、難しいことを乗り越える、努力、工夫、我慢などが求められることがあります。

良い汗をかくことが、物事の成功につながつていると昔から言われていますが、良い汗をかくことで、体中が活性化し、健康を維持、増進することができるそうです。

毎日の学校生活においても、それと同じことが言えるのではないでしようか。喜びのある学校であるためには、一人ひとりが、真の喜びを感じなければなりません。それは自分の思い通りにことが運ぶことではないでしょう。みんなで協力して一人では味わうことのできない喜び

を感じることが大切です。そのためには、先に述べたように、良い汗をかかなければなりません。

学校でいう汗は、文字通り、体を使って運動したり、作業したりして出る汗と、努力したり、ゆずり合つたり、我慢したりして、皆で得られた喜びに通じるもの、すなわち精神的な汗でなければなりません。

バーチャルの世界と現実の世界がまだ十分に理解できない幼児、児童にとつては、真の愛を得ることは、一見難しいように思えますが、周りのかかわり方一つで、それらも理解できるようになると思います。

テレビやゲームで笑うことと、友だちと楽しく過ごす一日とは、異なった喜びを得ることでしょう。

五月になると、千葉の天津小湊の磯で、四年生が海浜学校を実施します。わたしたち、大人にとつては、何の変哲もない磯浜ですが、カニやヒトデ、時にはタコを探す子どもたちの眼は真剣で、とても輝いています。

学校、学年、学級という集団を通して得ることのできる喜びがそこにはあるのでしょうか。

人間が成長するためには、素質・環境・教育のバランスが必要だと言われます。学校生活の中で、子どもたちは、色々な影響を受けながら成長します。教師から教えられるもの、教科書から学ぶこと、そして、忘れてはならないのが、友だちから学ぶものです。仲間の成功も失敗

も、教室の中や、登下校、遊びの時間と、あらゆる場面から、しつかり学んでいるのです。

わたしたちは、子ども一人ひとりの能力を伸長、開発できるよう様々な工夫や努力をしていきます。そのために、教室という環境を整えることも重要なことです。教室というのは、場所を指すだけではありません。クラスを構成する子どもたち一人ひとりが全力を出して真剣に学ぶことによつて、それぞれのクラスの雰囲気ができあがります。よく、良いクラスを作ることによつてそのなかにいる一人ひとりがよい人間に成長するといわれていますが、クラス作りが目的ではないことが分かります。それだけ仲間からたくさんのこと学び、成長していくのです。みんなで、歩む学校を、ご父母の皆さんと力を合わせて推進していきたいと思います。

（「めぐろ　せいび」 Walk with Children 二〇〇四年六月 より 一部省略）

シスター・アンジヨリーナ・バローネからはたくさんのこと学ばせていただきました。二年を迎える私の目黒星美学園小学校での教育活動が、今もつてできるのもシスターのおかげと感謝いたしております。

源泉に汲みながら

目黒星美学園中学・高等学校校長 シスター牧田トミ

この度、シスター・アンジヨリーナ・バローの卒寿を祝し、五期生を中心に一期生の有志の方々が、記念誌「目黒星美学園物語」を発行なさいました。心あたたまるすばらしい企画だと思います。

私がシスター・アンジヨリーナを知るようになつた頃は、シスターはもう校長ではなく、院長、そして管区評議員としてお働きで、多くのシスターたちからアンジヨリーナ院長様と呼ばれて親しまれ、尊敬されていました。同じ修道院で生活する機会はありませんでしたが、志願者や若いシスターに出会うと、いつも柔和な眼差しで、気楽に挨拶し、冗談をとばし、ちやめつ氣たっぷりに笑わせたりする方でしたから、周囲にはいつも優しく明るい雰囲気が漂つていたのを記憶しています。

シスター・アンジヨリーナのこの明るさ、單純さ、そして何よりも神に対するゆるぎない信仰、ドン・ボスコの精神に培われた教育者としての熱意、日本の子どもたちへの献身的な愛が、本学園の創立に際して、幾多の困難をも乗りこえる原動力になつたのだと思います。

宣教女たちによつて、イタリアから海を越えて日本に移し植えられたドン・ボスコとマリア・マザレロのカリスマは、神の恵みの中に学園の多くの協働者や保護者の方々、そして恩人の皆様の寛大なご支援をいただき、しつかりと根をはり、今日まで発展して参りました。

まもなく創立五〇周年を迎える学園の今後の課題は何でしようか。やはり、何よりも創立者たちのカリスマ、すなわち源泉にたち返ることだと思います。なぜなら、カトリック・ミッショナル・スクールとしての目黒星美学園の存在意義はそこにあるからです。同時に、二一世紀の日本の、そして国際社会のニーズに応えられる女性を育成するという本学園の現代における使命をよりよく果たしていくためには、創立者のカリスマ、源泉にかえつて建学の精神をたえず汲み取つていくことが必要なのです。

ところで、大きな希望と期待を抱いて迎えた二一世紀も四年を経過しようとしていますが、世界は、過ぎ去った二〇世紀よりも平和になり、人々は幸せになつていてるでしょうか。私たちの期待はあの九・一一テロにより、早くも見事に覆されてしましました。世界中をはげしい驚愕と悲嘆、底知れぬ恐怖と不安に落とし入れたこの事件は、周知の通り、米国をイラク戦争へと駆り立て、多くの同盟国や支持国をもまき込んでいます。戦争終結宣言後も、テロはかえつて時と場所、相手を選ばず頻発し、連鎖反応を引きおこしとどまるところがありません。テロは報復のみでなく政治的 requirement の手段として、ますます正当化され他のイスラム系諸国にも広が

り、ついに北オセチア共和国ベスランの学校テロ事件まで引き起こすに至りました。悲しいことですが、世界のこのような状況に対して現在の私たちは無力で何の解決方法も持っていないのです。しかし、将来の大人である若者たち、生徒たちを平和のために教育することは可能であり、その使命が私たちに託されているということを再確認しなければなりません。教皇ヨハネ・パウロ二世は、ドン・ボスコの考え方を、私たちに呼びますかのように、次のように言われました。「青少年たちは、私たちの希望です。……あなたの方のいのちを希望に賭けてください」と。

昨年、扶助者聖母会第二一回総会は、私たちの教育使命の遂行すべき重要なポイントとして

- a. 正義と平和への教育
- b. いのちの文化と連帯の文化への教育
- c. 異文化間での関わりを尊重する教育

以上の三点をとりあげました。この三点は、それぞれ別個に成り立っているのではなく、相互に深い関わりのうちに成り立つものではあることはあらためて申すまでもありません。

従来、教育について語るとき、知育、体育、德育といつた領域について語られることが多かつたと思います。しかし、二一世紀の教育は、その領域だけではおさまらず、「全人教育」に関しても、もっと広い視野と深い考察によつて、教育の新たな対象となる内容を含むものに変

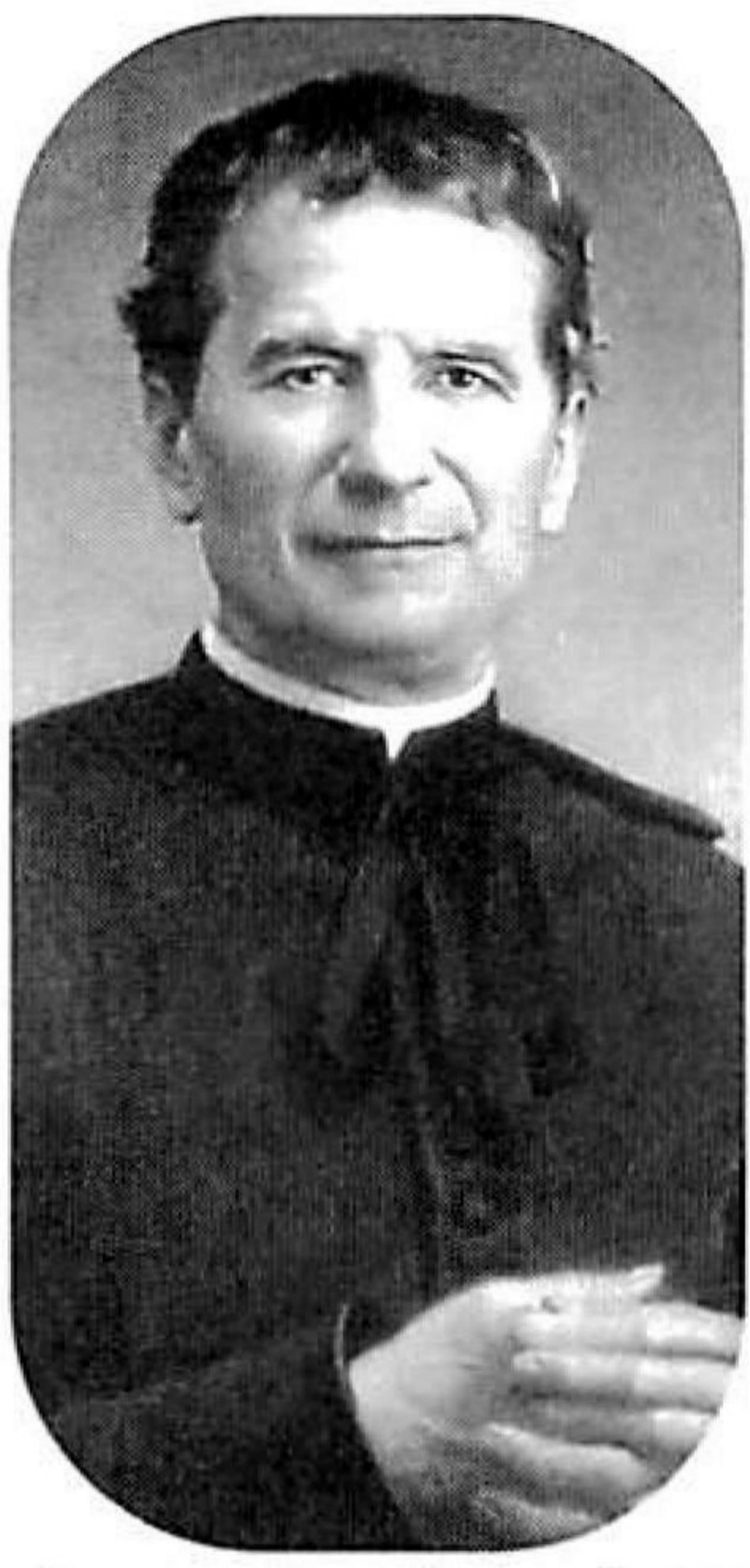
化してきていると思います。何よりも「自分」という個人の生き方は、他者との深い関わりなしにありえないことが、どの項目から見ても理解できるでしょう。

一九世紀に生き活動したドン・ボスコは「善きキリスト者、誠実な社会人」を教育目標として掲げました。二一世紀の私たちは彼のカリスマであり、貴重な遺産である予防教育法を受けつぎ大切に実践しながら時代の要請に適合させ、同じ目標を達成していかなければなりません。カトリック・ミッション・スクールの土台である「福音的価値観に基き、共に生きる社会人」すなわち、

- 1 地球規模化社会の一員として様々な問題を、グローバルな視点からとらえることができる人
- 2 自己に責任を持ち、共同して働くことができる人
- 3 各国の文化的相違を理解し、その違いを受け入れることができる人
- 4 物事を平和的に解決できる意志と能力を持つ人
- 5 環境保全のために必要なら自己改革が出来る人 等

このような人間の育成には、具体的なカリキュラムや行事、その他の教育活動の編成が必要ですが、目下その緒についたばかりで、今後の継続的研究と実践にまたねばならないのが実状です。何よりはつきりしていることは先ず教師である私たちが、このような意識をもつて自己教育に励むことが求められているということです。

私たちの母であり、師であられる聖母マリアがドン・ボスコやシスター・アンジヨリーナをいつもお導きになられたように、私たちをも照らし導き勇気をお与え下さいますように祈りながら、人類の希望である青少年のために、青少年と共に教育者としての使命に賭けていきたいと思います。



聖ヨハネ・ボスコ (1815
～1888) サレジオ会、
扶助者聖母会創立者



扶助者聖マリア サレ
ジオ会、サレジアン・
シスターズの保護者



聖マリア・ドメニカ・
マザレロ (1837～
1881) 扶助者聖母会
協創立者

シスター・アンジヨリーナ・バロー・ネ 略歴

一九一四年（大正三年）六月八日

イタリア トリノ市で誕生

一九三八年（昭和十三年）八月五日

初誓願宣立（トリノ市）

一九三九年（昭和十四年）一月～九月

来日 別府市小百合愛児園勤務

一九三九年（昭和十四年）九月～一九四四年（昭和十九年）

東京 三河島で幼稚園勤務

一九四四年（昭和十九年）～一九四五年（昭和二十一年）

清水市、藤枝市、山中湖等に養護児童と戦火をさけて疎開

一九四五年（昭和二十一年）八月一五日

終戦 米軍が山梨県にも進駐。児童たちのために日用品の特配を申請しに米軍キャンプに行くうちに、米軍から学校を設置することを強く勧められ、星美学園創立のきっかけとなる。

一九四五五年（昭和二十一年）～一九五四年（昭和二十九年）三月

赤羽星美学園勤務（教諭、会計）

一九五四年（昭和二十九年）四月～一九六〇年（昭和三十五年）三月

「聖母の汚れなきみ心」に捧げられた新支部開設、赤羽星美学園第二小学校設置、初代院長、校長として就任。（後の目黒星美学園小学校）

一九六〇年（昭和三五年）四月～一九六三年（昭和三八年）三月

「幼き聖マリア」に捧げられた新支部開設、

目黒星美学園中学校設置、初代院長、校長就任

一九六三年（昭和三八年）四月～一九六六年（昭和四一年）三月

目黒星美学園高等学校設置、初代校長就任

一九六六年（昭和四一年）四月～一九七二年（昭和四七年）三月

目黒星美学園小学校校長、院長として就任

一九七二年（昭和四七年）四月～一九七四年（昭和四九年）三月

クワンジユ（韓国）支部の院長就任

一九七四年（昭和四九年）四月～一九七六年（昭和五一年）三月

赤羽星美学園支部の副院長

一九七六年(昭和五一年)四月～一九七七年(昭和五二年)三月

清水支部院長

一九七七年(昭和五二年)四月～一九七八年(昭和五三年)三月
赤羽管区本部で静養

一九七八年(昭和五三年)四月～一九七九年(昭和五四年)三月
赤羽星美ホーム副院長

一九七九年(昭和五四年)四月～一九九一年(平成三年)九月
赤羽修道院 受付係

一九九一年(平成三年)一〇月～二〇〇一年(平成一三年)三月
調布聖ヨゼフ修道院で静養

二〇〇一年(平成一三年)四月一〇日～二〇〇一年(平成一三年)一二月二四日


調布北多摩病院入院

二〇〇二年(平成一四年)一二月二十四日～二〇〇三年(平成一五年)一一月二七日

東京天使病院に転院

二〇〇三年(平成一五年)一一月二七日～

ふじの温泉病院に転院 療養中



年表

日本におけるサレジアン・シスターズ(FMA)と目黒星美学園の歩みを中心に

西暦

FMAと目黒星美学園

教会・サレジオ会

社会

一九〇四	ラウラ・ヴィクニヤ、ファン・デ・ロス・	ドン・ボスコが司祭に叙階される サレジオ会が結成される
一九〇三	マリア・マザレロ、ニツツア・モンフェラー トで帰天（一九一年から列福調査開始）	ドン・ボスコ、トリノで帰天（一八九〇年列福調査開始） 教皇ピオ一〇世即位（一九一四年まで）
一八八八	マリア・マザレロは最初の宣教女たちとローマにおいて教皇ピオ九世に謁見	マリア・マザレロは最初の宣教女たちとローマにおいて教皇ピオ九世に謁見
一八八一	フランスのニースにイタリア以外の国で初の支部を開設	フランスのニースにイタリア以外の国で初の支部を開設
一八七八	未来の修道会の初代の評議員の選挙でマリア・マザレロが初代の上長となる サレジアン・シスターズ（扶助者聖母会）創立	未来の修道会の初代の評議員の選挙でマリア・マザレロが初代の上長となる サレジアン・シスターズ（扶助者聖母会）創立
一八七七	マリア・マザレロは最初の宣教女たちとローマにおいて教皇ピオ九世に謁見	マリア・マザレロは最初の宣教女たちとローマにおいて教皇ピオ九世に謁見
一八七二	ドン・ボスコが司祭に叙階される サレジオ会が結成される	ドン・ボスコが司祭に叙階される サレジオ会が結成される
一八五九	ドン・ボスコが司祭に叙階される サレジオ会が結成される	ドン・ボスコが司祭に叙階される サレジオ会が結成される
一八四一	ドン・ボスコが司祭に叙階される サレジオ会が結成される	ドン・ボスコが司祭に叙階される サレジオ会が結成される

日露戦争

アンデス（アルゼンチン）で帰天（一九五

五年から列福調査開始

（一九五

一九一四

一九一五

一九一六

一九一七

一九一八

一九一九

一九二〇

一九二六

一九二九

第一回宣教女六名神戸入港、宮崎市元宮町に扶助者聖マリア修道院設立、宣教開始・本部をニツツア・モンフェラートからトリノに移転

第二回宣教女三名神戸入港

別府市浜脇に聖マリア・マザレロ修道会設立
宮崎明星幼稚園落成式

一九三一

ベネディクト・五世即位（一九三一年まで）

教皇ピオ・一世即位（一九三九年まで）

ローマ聖座はサレジオ会に日本の宣教を依頼・日本への宣教事業がサレジオ会海外事業開始五〇年記念事業となるチマッチ神父来日（門司港に入港）
トン・ボスコ列福式

関東大震災

第一次世界大戦始まる
第一次大戦終結

世界経済恐慌

ロンドン軍縮会議

マキシミリアン・コルベ師来日・チマッチ神父再来日・マルジヤリア神父が大分教会で印刷学校を作り「トン・ボスコ社」が始まる

日本カトリック・ボイスカウト結成

スペイン革命
満州事変勃発

一九三九	第三回宣教女二名神戸入港
一九三八	本部より修練院開設許可
一九三七	大浦天主堂国宝指定
一九三六	第三回宣教女三名長崎入港
一九三五	サレジオ会より明星幼稚園購入
一九三四	浜脇修道院初めて乳児受け入れ
一九三三	マレラ大司教着任
一九三二	教皇座駐日復命・出版事業は大分から
一九三一	マレラ大司教着任
一九三〇	ドン・ボスコ列聖される
一九二九	ドン・ボスコ社は練馬に移転
一九二八	チマッチ神父初代教区長就任
一九二七	マリア・マザレロ列福式
一九二六	第四回宣教女三名長崎入港
一九二五	小百合愛児園開園式
一九二四	教皇布教聖者日本の教会に指針「祖国に対する信者のつとめ」を送る
一九二三	日本国際連盟脱退
一九二二	ナチスドイツにヒトラー内閣成立
一九二一	ヒトラーによりユダヤ人への迫害始まる
一九二〇	二・二六事件
一九一九	日独防共協定
一九一八	日中戦争突入
一九一七	蘆溝橋事件
一九一六	日本軍南京占領
一九一五	国家総動員法
一九一四	ドイツ、オーストリア併合
一九一三	ノモンハン事件
一九一二	ピオ一二世選出（一九五八年まで）
一九一一	第六回宣教女二名長崎入港（シスター・アン

一九三九	满州国建設宣言
一九三八	五・一五事件
一九三七	犬養首相暗殺
一九三六	上智大学靖国神社参拝拒否事件
一九三五	マレラ大司教着任
一九三四	教皇座駐日復命・出版事業は大分から
一九三三	マレラ大司教着任
一九三二	ドン・ボスコ列聖される
一九三一	ドン・ボスコ社は練馬に移転
一九三〇	チマッチ神父初代教区長就任
一九二九	マリア・マザレロ列福式
一九二八	第四回宣教女三名長崎入港
一九二七	小百合愛児園開園式
一九二六	教皇布教聖者日本の教会に指針「祖国に対する信者のつとめ」を送る
一九二五	日本国際連盟脱退
一九二四	ヒトラーによりユダヤ人への迫害始まる
一九二三	二・二六事件
一九二二	日独防共協定
一九二一	蘆溝橋事件
一九二〇	日中戦争突入
一九一九	日本軍南京占領
一九一八	国家総動員法
一九一七	ドイツ、オーストリア併合
一九一六	ノモンハン事件
一九一五	ピオ一二世選出（一九五八年まで）

ジョリーナ・バロー来日、別府小百合愛兒

園勤務)

東京三河島扶助者聖マリア修道院設立

一九四〇

三河島星美学園落成式

一九四一

歌劇「細川ガラシア」上演（日比谷公会堂）

日本の教会・教区・司牧区管理者に外国人退任、日本人任命

一九四二

サレジオ会事業開始百周年記念

一九四三

マキシミリアン・コルベ師アウシュビツツで帰天

一九四五

イタリア人宣教師監視開始

別府・三河島・清水で宣教女監視開始

「財団法人扶助者聖母会」設立

シスター・アンジョリーナ・バローネ、清水

市、藤枝市、山中湖など養護児童と戦火を避けて疎開

一九四四

九州の宣教師は柄の木温泉（阿蘇山）で監禁される（六一八月）

一九四五

国民徵用令
スペイン内乱終結
ヨーロッパで第二次世界大戦勃発
日独伊三国同盟調印
宗教団体法公布施行
皇紀二六〇〇年記念式典
国民学校開始
アジア太平洋戦争開始
米軍機本土初空襲
イタリア・バドリオ政権
連合軍に降伏
学徒出陣
学童疎開開始
B29による東京初空襲
東京大空襲
ドイツ降伏
広島・長崎に原爆投下
戦争終結

一九四九

一九四八

一九四七

一九四六

東京星美学園小学校設置認可
明星幼稚園、小学校設置認可
東京星美学園中学校設置認可
静岡星美学園中学校設置認可
東京星美学園高等学校認可
明星中学校設置認可開校
静岡星美学園高等学校認可

カトリック教会復興、信仰の自由＊力
トリック新聞復刊・休刊中の「ドン・
ボスコ社」が復刊し「からしだね」
目黒区の碑文谷に土地が購入される
東京カトリック神学校（旧東京公教大
神学校）開設
目黒でオラトリオ（日曜学校）が始ま
る、ダルフィオル神父が担当

六・三・三制スタート
日本国憲法施行
児童福祉法公布
イスラエル独立
極東軍事裁判
国連世界人権宣言採択
大韓民国成立
朝鮮民主主義人民共和国
成立
第一次中東戦争
北大西洋条約機構（NATO）成立

教育基本法、学校教育法
公布
天皇の人間宣言
日本国憲法発令
連合軍厚木に到着GHQ
占領支配開始
国際連合発足
終戦
ポツダム宣言受諾

中華人民共和国成立

ドイツ連邦共和国（西ド

イツ）成立

ドイツ民主共和国（東ド

イツ）成立

私立学校法施行

朝鮮戦争勃発

対日講和条約調印

日米安保条約調印

学校法人令廃止

宗教法人法公布施行

日黒サレジオ幼稚園開園
「からしだね」誌「カトリック生活」
になる

日黒サレジオ教会の着工式

教皇庁と日本との正式外交関係確立

NHKテレビ放送開始

朝鮮戦争休戦協定

米韓安保条約協定

自衛隊発足

碑文谷サレジオ教会落成式
福者ドメニコ・サヴィオ列聖される

星美学園第二小学校開設（初代校長シスター・アンジヨリーナ・バローネ、第一回入学者一二六名、サレジオ幼稚園二階三教室の仮

校舎にて）

一九五四

一九五二

一九五〇

一九五一

静岡学校法人星美学園設立

静岡星美学園小学校設置認可
別府学校法人明星学園設立

赤羽学校法人星美学園設立
共創立者マードレ・マリア・ドミニカ・マザ
レロ列福される

赤羽星美学園幼稚園設置認可
学校法人城星学園設立幼稚園小学校設置認可
大分小百合幼稚園開始

明星学園高等学校設置認可

静岡星美学園幼稚園認可

星美学園第二小学校開設（初代校長シスター・アンジヨリーナ・バローネ、第一回入学者一二六名、サレジオ幼稚園二階三教室の仮校舎にて）

一九五六

調布星美学園幼稚園開設
学校法人「目黒星美学園」と改称

一九五七

目黒星美学園小学校東横ホールにてオペレッタ「マルコ漁師」、英語劇「あかすきん」、オペレッタ「ピノキオの冒険」を発表（三、四年男女合同）

一九五八

目黒星美学園小学校N H Kテレビ出演（「イタリアの音楽」ピノキオの冒険から）

城星学園中学校認可

目黒星美学園中学校建設用地として世田谷区大蔵町一四七に土地購入

目黒星美学園短期大学設置認可（家庭科）

東京都世田谷区大蔵町に幼き聖マリア修道院設立

目黒星美学園中学校開設（初代校長、シスター・アンジヨリーナ・バロー）

目黒星美学園小学校第二代校長にシスター・リタ・ボニ就任

山中星美ホーム、養護施設として設置許可

長崎星美幼稚園開設

城星学園高等学校認可

星美学園短期大学保育科新設許可

日本カトリック教会再建百年祭

日本女子修道会連盟発足

第二バチカン公会議開会宣言

キュー危機

ベルリンの壁構築

ソ連有人衛星打ち上げ成功

日本国連加盟

ソ連人工衛星打ち上げ成功

ヨハネ二三世即位
目黒サレジオ中学校舎落成式（チマツチ神父が司式をする）

安保闘争

ベトナム戦争

キューバ革命

日米安全保障条約調印

全学連デモ

アフリカ諸国続々独立

功

米國有人衛星打ち上げ成功

ケネディー大統領暗殺

教皇パウロ六世即位（一九七八年まで）

東京オリンピック開催

東海道新幹線開通

チマツチ神父帰天

第二バチカン公会議閉幕

中国文化大革命

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任
目黒星美学園小学校第三代校長にシスター・
アンジヨリーナ・パローネ就任

目黒星美学園中学校、高等学校第二代校長に
シスター・リタ・ボニニ就任

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任

一九六八

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任
目黒星美学園小学校第三代校長にシスター・
アンジヨリーナ・パローネ就任

一九六九

目黒星美学園中学、高等学校第三代校長にシ
スター・テレジーナ・篠田就任
本部がトリノからローマに移転

一九七〇

扶助者聖母会創立百年記念
目黒星美学園小学校第四代校長にシスター・
戦争

一九七一

扶助者聖母会創立百年記念
目黒星美学園小学校第四代校長にシスター・
戦争

一九七二

目黒星美学園小学校十周年

富士山聖母除幕式

山中黙想の家落成

一九六六

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任

一九六七

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任

一九六八

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任
目黒星美学園小学校第三代校長にシスター・
アンジヨリーナ・パローネ就任

一九六九

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任
目黒星美学園小学校第三代校長にシスター・
アンジヨリーナ・パローネ就任

一九七〇

南山第二学園（幼稚園と小学校）本会委任
目黒星美学園小学校第四代校長にシスター・
戦争

一九七一

扶助者聖母会創立百年記念
目黒星美学園小学校第四代校長にシスター・
戦争

一九七二

一九八一	共創立者マリア・マザレロ帰天百周年	一九七九	目黒星美学園中学、高等学校第五代校長にシスター・野中康子就任	一九七八	教皇ヨハネ・パウロ一世即位（一ヶ月のみ）	一九七六	毛沢東死亡	一九七五	カンボジアポルポト政権成立	一九七四	第一次石油危機ベトナム戦争終結	一九七三	ドメニカ杉村就任
		一九八〇	サレジアン・シスターズ来日五〇周年記念		教皇ヨハネ・パウロ二世即位				チマツチ神父の列福調査開始		第四次中東戦争了		ドメニカ杉村就任
			目黒星美学園小学校創立二十五周年						聖年		米軍ベトナムより撤退完了		ドメニカ杉村就任
										沖縄返還			

教皇ヨハネ・パウロ二世来日

マザー・テレサノーベル平和賞受賞	第二次石油危機	ボーランド「連帶」誕生	毛沢東死亡	カンボジアポルポト政権成立	第一次石油危機ベトナム戦争終結	第四次中東戦争了	米軍ベトナムより撤退完了	沖縄返還	聖年	ドメニカ杉村就任	西暦
------------------	---------	-------------	-------	---------------	-----------------	----------	--------------	------	----	----------	----

一九八三

目黒星美学園小学校創立三十周年

チマツチ資料館落成、初代館長クレバ
コレ

一九八四
一九八五

中国残留孤児来日

男女雇用機会均等法成立

一九八六

ソ連チエルノブイリ原発
事故

一九八七
吉田登代子就任

特別聖年「マリアの年」

一九八八
ラウラ・ヴィクトーニヤ列福

ドン・ボスコ帰天百周年

一九八九

昭和天皇崩御
中国天安門事件
ベルリンの壁崩壊
明仁天皇即位の礼
東西ドイツ統一

一九九〇

一九九一
目黒星美学園中学校創立三十周年記念式典、
講堂落成式

チマツチ神父、教皇ヨハネ・パウロ二世から「尊者」の称号を与えられる

一九九二
岩月たつ子就任
目黒星美学園小学校第六代校長にシスター・

一九九四

松本サリン事件
南アフリカ共和国大統領
にマンデラ氏就任

一九九五

黒星美学園小学校第七代校長に大森隆實氏就任

一九九七

目黒星美学園中学、高等学校第六校長にシスター・若松悠紀子就任
扶助者聖母会来日七〇周年記念

一九九九

二〇〇〇

大聖年・コンブリ神父、チマツチ資料館館長に就任

二〇〇一

目黒星美学園中学、高等学校第七代校長にシスター・牧田トミ就任

二〇〇三

サレジアン・シスターズ来日七五周年ラウラ・ヴィクニヤ帰天百周年

ドメニコ・サヴィイオ列福五〇周年

二〇〇四

目黒星美学園卒業生有志「目黒星美学園物語
—卒寿を祝し、シスター・アンジヨリーナ・バローに捧ぐ」を刊行

阪神淡路大震災
オウム真理教地下鉄サリン事件
温暖化防止京都会議議定書採択
ヨーロッパ単一通貨ユーロ誕生
コソボ和平

米国同時多発テロ

英米アフガニスタン攻撃
米国イラクに武力侵攻
自衛隊イラク派遣
イスラエル・パレスチナ紛争激化

参考資料・「サレジアン・シスターズ 日本館区の歩み」「聖母への感謝の生きた記念碑となつて」（サレジア
ン・シスター・ズ日本管区七五年の歩み）（サレジアン・シスター・ズ日本管区）
「日黒星美学園小学校三十年の記録」（横尾千畝）
「チマッチ神父様の年譜」（その一～九）（チマッチ資料館）
「三十年の歩み」（日黒星美学園中学、高等学校）
年表作成・シスター・中島ユリ子、小野豊和（一期）、麻生マユ（五期）

編集を終えて

すべての原稿を読ませていただいた。シスター方、教職員の方々、生徒のみなさん、そしてそのご父兄たちの原稿である。インタビュー形式の原稿もあり、ご本人が思いのだけをしたためられた原稿もあつた。原稿の中には懐かしさのあまりおもわず胸が熱くなるものもあつた。それらの原稿は、星美学園第二小学校が設立されて五一年、日黒星美学園小学校の第一期生が卒業してから四五年という長い年月の中で、個人の心の中で醸造されてきた記憶の刻印でもあり、今まで記録されていなかつた学校設立から発展を辿る星美学園の歴史でもある。

そもそもこの本を作ろうとした動機のひとつは、初代校長シスター・アンジヨリーナ・バローネの九〇歳、卒寿を祝つて、どのようにしてわれわれの学校ができたのかを調べ記録に残したいというものであった。シスター・テレジーナの、筆力に満ちたみごとな『シスター・アンジヨリーナ・バロー』との二人三脚の原稿は、これこそわれわれが知りたかつた内容であり、後々まで残すべき、歴史の当事者が語つた「奇跡的な事業」の証言である。また、シスター・アンジヨリーナ・バローの貴重な「聖なる楽観主義」の肉声、インタビューを読み進むうちにあの天性の声が聞こえてきそうな、いまは亡きダルフィオル神父様が語るご苦労の数々も知

ることができ、一応の目的は達せられているのではないかと思われる。

原稿の背後には、戦争が終わって一〇年しか経っていないころの日本の社会事情も見え隠れしており、そのことを考えあわせて読んでみるのも一興ではないだろうか。

ともかくもここに書かれている事柄すべてが、知育教育のみならず、星美学園で学校生活が送られて本当によかつたという、人間教育の歓喜の成果が謳われているように思えてならない。教える側と教えられる側が一体となつて創りあげてきた日黒星美学園のこの貴重な記録を、これから入学を希望される生徒のご父兄にもぜひ読んでいただきたいと願う。

もっと多くの人々が寄稿を希望したと思われるが、小・中・高の同窓会の協力の下、有志のプロジェクトによる刊行という性格もあり、限られた方々の原稿しか掲載できなかつたことが残念である。

最後に、ご多忙のなか、何度もミーティングを重ね、原稿を集められ、刊行のアナウンスをし、予算の工面に献身的に動かされた編集委員会の皆様方のご苦労があつたことをご報告しておきたい。

「目黒星美学園物語編集委員会」は、小学校同窓会、中学・高等学校同窓会(さつき会)の協力を得て発足した卒業生有志の会です。

小学校同窓会、中学・高等学校同窓会(さつき会)両会長の御尽力に感謝いたします。

この本の編集に携わった方々を御紹介いたします。

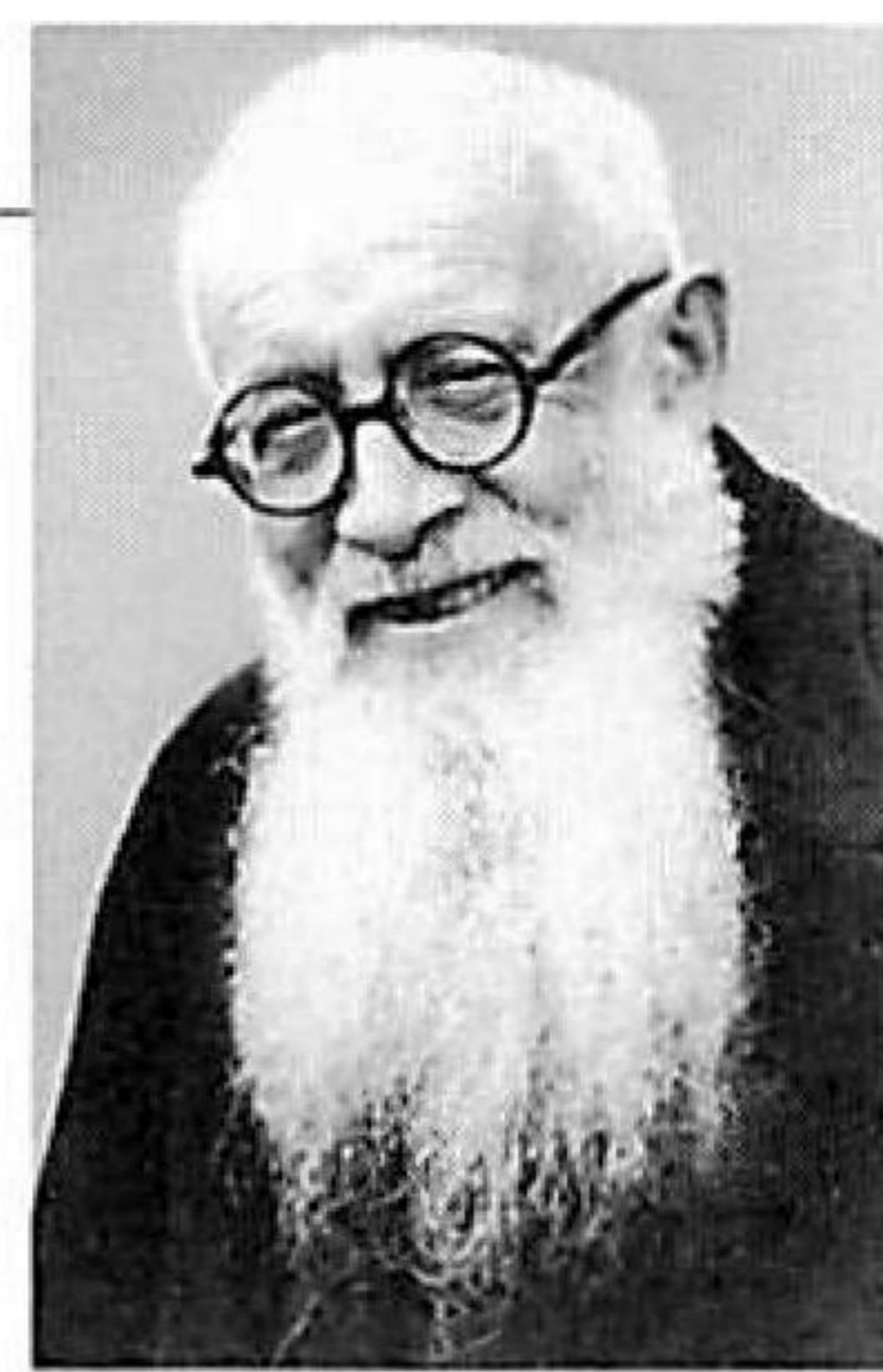
小野豊和、杉本進、樋泉史彦、大塚(旧姓山田)揚子、駒野(旧姓谷合)かほる、斎藤(旧姓犬飼)雅子、張(旧姓小笠原)たみよ、(以上一期生)

花上(旧姓植木)裕子(四期生)、麻生マユ、植木真理子、遠藤(旧姓岩城)喬子、落合(旧姓小松)乃里子、佐々木(旧姓杉本)かおる、下田(旧姓森竹)純子、中下(旧姓佐野)昌子(以上五期生)

献辞——書　須藤清

尊者ドン・チマッティと目黒星美学園

作田忠司



尊者ドン・チマッティ

……家臣の太刀が一閃の凄みを見せ、最後の祈りを捧げるガラシアを襲い、崩れ落ちる姿が栄光の贊歌によつて浄化されていきます……固唾をのむ聴衆の滲む涙とともに、オペラ『細川ガラシア』は終演をむかえました。

二〇〇四（平成一六）年秋、一九四〇（昭和一五）年に初演され歴史的な復活オペラとマスコミでも話題になつた、このオペラの作曲者こそサレジオ会が戦前はじめて日本に派遣した宣教師、尊者ドン・チマッティにはかなりません。

チマッティ神父の来日が一九二六（大正一五）年。その時からサレジオ会の活動は始まり、全国各地で音楽を通し神様を伝え続けます。それは戦後、目黒星美学園が開校される二八年も前のお話です。

ドン・チマッティは一九六五（昭和四十）年に帰天し、我が母校とはほぼ十年のお付き合い

でしたが、師に象徴されるサレジオ会の音楽の伝統は、開校まもない母校にあつても、確かな精神として脈々と受け継がれていました。

最近刊行されたドン・チマッティ書簡集には、初の宮崎でのコンサート時のこんな言葉が残されています。

「これは、神のご計画による、サレジオ会宣教活動のおもしろい始まりです」

そしてこの「おもしろい始まり」の続きが、あのダルフィオル神父指導による画期的な公演、一期生が小学三年生時に上演されたチマッティ神父作曲のオペレッタ『マルコ漁師』だったのです。この貴重な記録は現在でも横尾先生のお力によつてCDで聴くことができます。

サレジアン・シスターたちの献身的な開校への努力の陰に、尊者ドン・チマッティの祈りと音楽、そして「ご計画」があつたことを、思い起こしてみたいと思います。



2004年秋、65年ぶりに復活したオペラ『細川ガラシア』での、版画家山本容子によるオリジナル・チラシ



『今蘇る チマッティ神父とその弟子の歌声』
1期生が3年生（9歳）の時ダルフィオル神父の指導で開催され話題を呼んだオペレッタ『マルコ漁師』から7曲を収録
定価：1,500円（税別）
企画制作：チマッティ資料館
<http://www.v-cimatti.com/>
発売：ドン・ボスコ社
(TEL.03-3351-7041)



Storia della Scuola di Meguro Seibi Gakuen
目黒星美学園物語
—みむねのままに

2007年2月15日 改訂第1刷発行

著者 目黒星美学園物語編集委員会

発行 目黒星美学園小学校同窓会
〒152-0003
東京都目黒区碑文谷2丁目17番6号
目黒星美学園小学校内

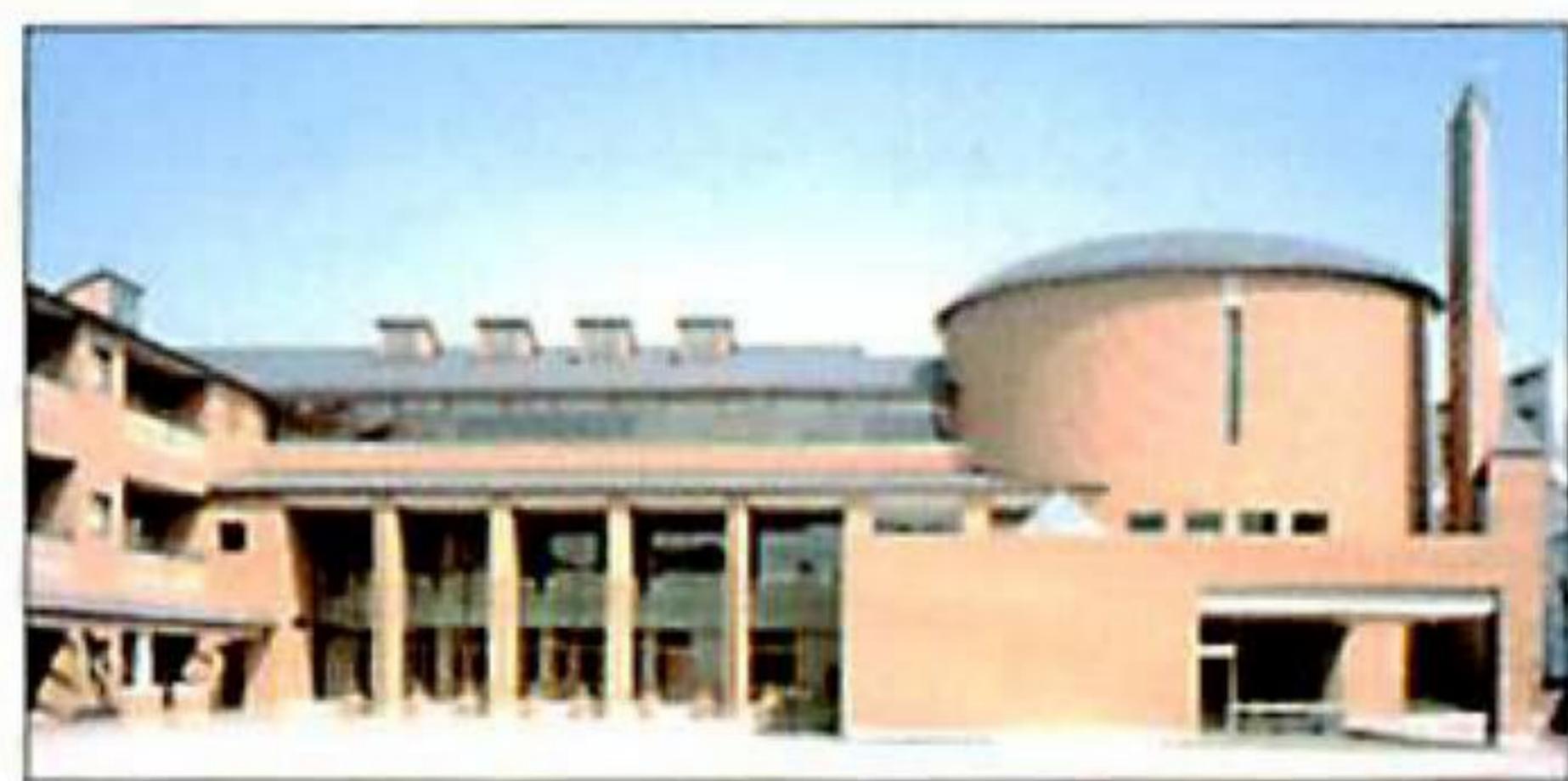
装帧 株式会社 中城デザイン事務所

印刷 有限会社 幸永印刷

©2005 Meguro Seibigakuen Monogatari HENNSYUINKAI Printed in Japan

定価は帯に表示しております。

本書の内容の一部または全部を無断で複写・複製することは、
法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。



Storia della Scuola di
MEGURO
SEIBI
GAKUEN

